

令和5年度 教育水準向上事業実施報告書

幼稚園名：国立ふたば幼稚園

☆今年度における本園が取り組んだ教育水準向上事業は以下の通りです。

実績報告①

- ・あそびを通して「食事のマナー」を学ぶ。

年長組を対象に、1学期及び3学期に1回ずつ外部講師を招き、お箸を使った「食事のマナー」を、外部講師の提案するあそびを通して楽しく学ぶ機会を得ることができた。

実績報告②

- ・農園行事の復興

新型コロナウイルスが学校伝染病5類へ移行したことを受け、本園における農園行事を新型コロナウイルス流行前の形式に戻すことができた。6月「田植え」のみ、台風災害の影響により中止せざるを得なかったが、3密を避けつつ農園行事を行うことができた。尚、以下が本園で実施した年間の農園行事である。(全園児親子参加)

- 6月17日(土) ジャガイモ掘り
- 7月1日(土) 田植え→台風災害の影響により中止
- 9月30日(土) 稲刈り・芋掘り
- 11月25日(土) 親子お餅つき

実績報告③

- ・職員間における防犯訓練の実施・充実

防犯訓練を各学期終業日に職員間で実施した。侵入者が本園に侵入したことを想定し、「園児を怖がらせず安全に保育室内に誘導すること」を目的に、想定される園児の動きをもとに職員が迅速に誘導できるよう、流れを職員間で把握・認識した。実際に園児のいる状況下で実施できるよう、次年度の適切な時期にて防犯訓練を実践する予定である。

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

幼稚園名：国立ふたば幼稚園

令和6年3月18日(月)

○自己評価報告書

1. 本園の教育目標

- ・日々の集団生活を通して、一人一人の自立した精神を養う。
- ・個性を尊重し、保育活動の中での「あそび」を通して、豊かな人間関係の基礎を養う。
- ・園行事を園児とともに創り上げる過程を通して、何事にも意欲的かつ自発的に取り組む姿勢を養う。

2. 本年度における当園が重点的に取り組む目標・計画

- ・本園の教育目標を踏まえ、園児一人一人が集団生活を通して楽しみながら活動できる保育実践を、本園の環境や教育方法を見直しながら目指す。以下の内容を保育年間計画と照らし合わせ、幼児教育を見直し、改善していくために取り組んだ。

- ①あそびを通して「食事のマナー」を学ぶ
- ②農園行事の復興
- ③職員間における防犯訓練の実施・充実

3. 評価項目の実施報告・取り組み状況及び評価

①あそびを通して「食事のマナー」を学ぶ

取組状況…年長児を対象に外部講師を1学期及び3学期に1回ずつお招きし、お箸の使い方を通して「食事のマナー」を学んだ。「なぜお箸を使えることが食事のマナーにつながるのか」年長児一人一人の考えを引き出しながらあそびを通して取り組むことで、小学校への就学を控える年長児にとって食事の方法に対して興味・関心を深めることのできる内容であった。この学習を通して、年長児担任より、お弁当の時間に積極的に箸を使う年少児が増えたとの報告があり、次年度において対象学年を広げ学習回数を増やすこと、生活指導においても箸の使い方についてふれることができるよう教育方法の改善に取り組む予定である。

評価(A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

評価=A

②農園行事の復興

取組状況…新型コロナウイルスの影響により、当園において農園行事も縮小傾向にあった。新型コロナウイルスが学校伝染病5類に移行したことを受け、実績報告②にある農園行事を縮小前の規模にまで戻し、親子が食育の一環として収穫体験を行うことができた。田植えにおいては台風災害によって中止を余儀なくされたが、他の農園行事は無事行うことができた。次年度は、本年度で得ることのできた改善点を活かし、より親子が楽しく農園行事に取り組むことのできる環境を整えながら農園行事を実施したい。

評価(A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

評価=A

③職員間における防犯訓練の実施・充実

取組状況…近年、「防災訓練」だけでなく、人的要因による「防犯対策」にも注力する必要がある

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

る。当園児が「育ち合う」場所として、「安全であること」を徹底していくことは保育活動の基盤でもある。防犯訓練を通して当園が「安全である」事実を世間一般に周知していくとともに、園児自身が「自分でできることは何か」を考える訓練にもなるよう、時間をかけて訓練内容を充実していく必要がある。

評価(A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

評価＝A

5. 今後取り組む課題（教育・環境・安全管理・幼少接続・その他事業向上）

保育…集団生活を通して、様々な経験を主体的に体験できる保育活動を実践する。

環境…園庭のみせる四季折々の様子を園児に味合わせながら、積極的にあそぶことのできる環境を目指す。

安全管理…現行の防災訓練に各月ごとに「評価規準」を設け、園児自身が安全に楽しく集団生活を過ごすことのできるよう見通しを立てる。保育活動中における防災訓練の実施だけでなく、園舎や園庭遊具を職員が正しく管理できるようマニュアルを見直し、再編する。

幼少接続…地域の小学校に出向き、交流学习を通してともに学ぶことのできる機会を1つでも多く増やす。

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和6年3月22日(金)

○学校関係者評価報告書

1. 本園の教育目標

- ・日々の集団生活を通して、一人一人の自立した精神を養う。
- ・個性を尊重し、保育活動中での「あそび」を通して、豊かな人間関係の基礎を養う。
- ・園行事を園児とともに創り上げる過程を通して、何事にも意欲的かつ自発的に取り組む姿勢を養う。

2. 本年度における当園が重点的に取り組む目標・計画

- ・本園の教育目標を踏まえ、園児一人一人が集団生活を通して楽しみながら活動できる保育実践を、本園の環境や教育方法を見直しながら目指す。以下の内容を保育年間計画と照らし合わせ、幼児教育を見直し、改善していくために取り組んだ。

- ①あそびを通して「食事のマナー」を学ぶ。
- ②農園行事の復興
- ③職員間における防犯訓練の実施・充実

3. 評価項目の評価

①あそびを通して「食事のマナー」を学ぶ

取組状況…年長児を対象に外部講師を1学期及び3学期に1回ずつお招きし、お箸の使い方を通して「食事のマナー」を学んだ。「なぜお箸を使えることが食事のマナーにつながるのか」年長児一人一人の考えを引き出しながらあそびを通して取り組むことで、小学校への就学を控える年長児にとって食事の方法に対して興味・関心を深めることのできる内容であった。この学習を通して、年長児担任より、お弁当の時間に積極的に箸を使う年少児が増えたとの報告があり、次年度において対象学年広げ学習回数を増やすこと、生活指導においてもお箸の使い方についてふれることができるよう教育方法の改善に取り組む予定である。

評価(A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

評価=A

小学校に就学する前段階の園児たちの高揚感が伝わってくる保育活動の一つだと感じた。国立ふたば幼稚園では農園行事もあることから、日常生活において食育に取り組んでいることがわかる。その次の段階として「食事のマナー」についてもあそびを通して学ぶことは生涯において重要なことであり、子どもたちの好奇心や探求心を養いながら継続して取り組んで欲しい。

②農園行事の復興

取組状況…新型コロナウイルスの影響により、当園において農園行事も縮小傾向にあった。新型コロナウイルスが学校伝染病5類に移行したことを受け、実績報告②にある農園行事を縮小前の規模にまで戻し、親子が食育の一環として収穫体験を行うことができた。田植えにおいては台風災害によって中止を余儀なくされたが、他の農園行事は無事行うことができた。次年度は、本年度で得ることのできた改善点を活かし、より親子が楽しく農園行事に取り組むことのできる環境を整えながら農園行事を実施したい。

評価(A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

評価=A

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

直近2,3年は新型コロナウイルスの影響もあり、屋内外における密な環境を避ける傾向にあったが、国立ふたば幼稚園の伝統的な行事として復興できたことは今年度の大きな成果といえる。末永く取り組むことのできるよう、日々各所起こる問題に対し改善を図りながら行って欲しい。

③職員間における防犯訓練の実施・充実

取組状況…近年、「防災訓練」だけでなく、人的要因による「防犯対策」にも注力する必要がある。当園児が「育ち合う」場所として、「安全であること」を徹底していくことは保育活動の基盤でもある。防犯訓練を通して当園が「安全である」事実を世間一般に周知していくとともに、園児自身が「自分でできることは何か」を考える訓練にもなるよう、時間をかけて訓練内容を充実していく必要がある。

評価(A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

評価=A

災害等の自然災害に対する訓練が必要なだけでなく「起こり得るリスク」に対しても取り組む姿勢は大きく評価できる。職員間で徹底するだけでなく、園児の環境を守ることが各ご家庭からお預かりする命の安全を守ることにつながる。園児たちが安心して通うことのできる教育機関であり続けるためにも、継続して取り組んで欲しい。

4. 総合的な評価（3つの項目に取り組んだ結果）

評価(A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

評価=A

国立ふたば幼稚園の保育活動の指針「こころを強く、大きく育てる」、農園行事を中心とした「非日常」を園児たちに体験してもらう活動は今後も継続して取り組んで欲しい。その一方で、「起こり得るリスク」に対して取り組むことは非常に重要であり、より子どもたちの環境を盤石なものにしてもらいたいと考える。

5. 今後取り組む課題（教育・環境・安全管理・幼少接続・その他事業向上）

保育…集団生活を通して、様々な経験を主体的に体験できる保育活動を実践する。

環境…園庭のみせる四季折々の様子を園児に味合わせながら、積極的にあそぶことのできる環境を目指す。

安全管理…現行の防災訓練に各月ごとに「評価規準」を設け、園児自身が安全に楽しく集団生活を過ごすことのできるよう見通しを立てる。保育活動中における防災訓練の実施だけでなく、園舎や園庭遊具を職員が正しく管理できるようマニュアルを見直し、再編する。

幼少接続…地域の小学校に出向き、交流学習を通してともに学ぶことのできる機会を1つでも多く増やす。

